

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

訪れた弥彦神社の菊花案内所で「天・地・人」について尋ねる。昔、祖母が菊づくりを得意としていて、家には大きな菊の鉢が幾つもあり、菊の話のなか

で、「天・地・人」の記憶があったからだ。語源は、森羅万象、天地間に存在する、数限りないすべてのもの(万物)や事象を意味して、「森羅」は樹木が限りなく茂り育つ意で、たくさん連なる事。「万象」は全ての形にあるもの、有形のものとして意味するものとされ、盆栽・生け花・菊花など自然を表す手法として好まれている。

特に菊では、3本仕立てで好まれ、盆栽とも言われている。1本の苗を摘心して3本の枝を伸ばし、後ろの1輪を花の3分の2くらい高く、前の2輪は同じ高さ、3つ花を同時に、同じ大きさに育て、できるだけ巨大輪に咲かせ、茎・葉を含めた全体が調和を保つように育てるよう公益法人農林水産・食品産業技術振興協会が

指導する代表的な菊の仕立て方だ。「天・地・人」の基礎論では、農耕で分かちやすく説明しているのが大切。その環境を「天」と言い、日当たりがよく暖かければ、その作物は良く伸びる。しかし日当たりが良くなっても、畑の土がやせていたり作物と適していなかったりとすると育たない。この養分の量と適合性を「地」と言い、同じ環境や、同じ畑であって

答えは、「弥彦神社では、作り方は左巻きでも、右巻きでも出品可能」との予想しなかった栽培法の返事。改めて菊づくり技術の難しさを感じてしまう説明内容だった。会場の一角に新潟県立加茂農林高等学校生物工学科の古典菊復活プロジェクトト・品種登録の取り組み内容が展示されていて、読み入る。先輩から受け継いだ、瀕死の古典菊の培養を試行錯誤した5年間の内容。着実に成果を出し続けている若者たちに今後も期待したい。

旅の車窓からは、一面のセイダカアワダチソウ。白馬村でもボランティアで駆除作業を続けているが、今年が多さにボランティア活動だけでは来年度以降は無理との声が多かった。地域全体………



に、自然を守る意識を広げてほしいと改めて強く感じた旅でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)

文化という着眼点をもって旅する楽しさを考えてみませんか(その2)

も、それぞれの作物に微妙なバラツキが出る。この個人の差、パーソナリティの違いを「人」と言う説明。「天・地・人」それぞれが大切なのだど理解する。しかし、質問の

に、自然を守る意識を広げてほしいと改めて強く感じた旅でもあった。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)